

～健康長寿は歯から～ ～健口から健幸へ～

2026
April

.....
4

No.838

熊歯会報

熊本県歯科医師会

Kumamoto Dental Association



CONTENTS

- | | | | |
|-----------------------------------|----|------------------------|----|
| ● 巻頭言（理事 秋山 清）..... | 3 | ● 報告..... | 22 |
| ● 理事会報告..... | 4 | ● 九地連報告..... | 23 |
| ● 委員会報告（地域包括ケア、厚生・医療管理、社会保険）... | 7 | ● 口腔保健センター新聞第8号..... | 24 |
| ● お知らせ・ご訃報..... | 10 | ● Legend～伝説のささやき～..... | 26 |
| ● 郡市会報告（熊本市、水俣・芦北郡市、阿蘇郡市、上益城郡）... | 14 | ● 良医を目指して..... | 27 |
| ● 報告..... | 19 | ● 会務報告..... | 28 |
| ● 令和7年度 叙勲・表彰受賞者..... | 20 | ● 新入会員..... | 30 |

— 歯科医師の倫理綱領 —

われわれ歯科医師は、日頃より歯科医学および歯科医療の研鑽を通じて培った知識や技術をもって、人々の健康の回復と疾病の予防のために貢献するものである。

- 一、専門職として歯科医学と歯科医療の発展のために尽くし、医療倫理の実践に務める。
- 一、専門職であることを念頭に、法を遵守し適切な説明を行い、常に愛情を持って患者のために社会的使命を果たすように努める。
- 一、自己の知識、技術、経験を社会のために提供し、社会福祉および国民の健康向上のために努める。

公益社団法人 日本歯科医師会

表紙に寄せて

熊本城長塀（現存城郭塀で日本最長242m）でライトアップが行われていました。春霞に煙る桜の可憐さもぶっ飛ぶビビッドピンク!! 人工美と自然美の圧倒的な隔たりに、改めて桜の至高の美を思います。人が自然の法則を究め、フィボナッチ数列の黄金比やカントの「目的なき合目的性」など美を追求しても、「美」そのものである自然には及ばないのでしょうか。一方、長塀の白黒のコントラストは長い歴史を経て威容を湛え、人の智慧と思いの積み重ねを感じます。熊本地震から十年。積み重ねが歴史となる明日へ、新たな十年へ踏み出す四月です。



(N・A)

対外PRの柱は 「患者さんから頂く感謝の積み重ね」



理事 秋山 清

広報担当理事を拝命致しました秋山清と申します。日頃より、会員の先生方には熊歯会報へ寄稿いただき感謝申し上げます。広報に携わり6期11年目を迎え、この度理事を務めるにあたり3つの計画を掲げました。

まず、より多くの先生方に会報を読んでもらうため、シニア倶楽部会員と入会5年未満の会員を対象とした投稿企画を開始しました。熊本県歯科医師会をこれまで築いてこられた先達である会員の先生方、そして将来の本会を更なる発展に導かれる先生方、双方に対する私の想いによるものです。会報誌の発行は本会活動報告と共に、先輩方の歩まれてこられた道のりや培われた経験、後輩方の今後歩まれる希望に満ちた信念を後世に伝えていく重要な事業であると認識しております。

次に、日歯キャラクター「よ坊さん」の認知度アップです。2006年度に誕生した「よ坊さん」が、歯科関係者以外の一般の方々にも広く浸透するよう、ゆるキャラ日本一である「くまモン」を活かしたマスコミ展開を目指します。本会主催イベントで両キャラクターのコラボ企画を実現し、在熊マスメディアとの緊密な連携で対外PRの推進に努めます。また日歯HPから患者さん向けの動画コンテンツも多数ダウンロード可能になっておりますので、会員の先生方には待合室などで活用いただき「よ坊さん」の周知にご協力頂ければ幸いです。今年には新しい「よ坊さんグッズ」の製作販売も、日歯が予定しています。

最後は、各委員会と連携し会長の本願である「歯科のイメージアップ戦略」に取り組んで参ります。歯科医療従事者は口腔の健康から人々の全身の健康を支え、QOL向上に欠かせない職業であることをアピールし、将来お口の事で後悔しない人生を県民に送って頂きたいと願っています。

日歯も『投歯』…日々のセルフケアと定期的なプロケアを通じて口腔負債を解消し、オーラルフレイルを予防する概念…というキーワードで「いい歯は毎日を元気に」プロジェクトを展開しております。

将来を模索している若者に対しては「カッコいい歯科」を印象付け、学院を含め歯科関連学校への志望者が増えるよう魅力的な発信を考えて参ります。更に、熊本県歯科医師会の公式SNSの運用やアンバサダーを起用し、今までになかった斬新な対外PRも進めていきます。

「カッコいい歯科医師」を検索すると、【患者にとって高度な技術を持ち、患者の不安に寄り添い、親身になってくれる「人間力」のある医師です。】とAIが語っていました。我々は患者中心の医療を重んじ、主訴に傾聴し、ラポールを築き、「ありがとうございました」「お陰さまで良くなりました」の一言をいただける「カッコいい歯科医師」でなくてはなりません。対外PR=患者さんから頂く感謝の積み重ね（歯科の伝導者）です。

会員お一人おひとりの日々の患者対応や治療努力の成果が、熊本県歯科医師会としての対外PRの大きな柱となります。ニュースレター冒頭の医療苦情・相談事例の紹介を近い将来には「歯科医師への感謝」という報告から始められるよう、会員一致団結して邁進しようではありませんか！

広報担当理事として6人の頼りになる委員と支えてくれる担当職員と共に、与えられた職務に全力で取り組んで参りますので引き続きご指導、ご支援、ご協力、ご叱責を賜りますようお願い致します。



連盟との連携で我々の政策実現を!

— 第10回理事会 —

2月24日(火)午後7時30分より県歯会館において、牛島会長他全役員、神山・永松監事、渡辺代議員会議長、河原代議員会副議長の出席のもと開催された。

1. 開会：大林副会長
2. 挨拶：牛島会長

本日は、代議員会議長ならびに副議長にお越しいただき、ありがとうございます。代議員会の議題等もございますので、よろしくお願い致します。

さて、九地連協議会におきましては、役職員の皆様にご協力を賜りありがとうございました。他県から「おもてなしが素晴らしく、運営もスムーズだった」と大変高い評価をいただきました。お世話になりました。その中で、時代の変化に伴い、変革が求められております。協議会や歯科医学大会、厚生行事、各担当者会等の在り方を柔軟に見直すべき時期に差し掛かっており、7,411人の会員を擁する大規模な組織として、我々の意見を集約し、関係団体への要望活動を行うなど、新たな役割の構築についても検討が必要だと考えております。

また、木村知事は2月の県議会定例会で、令和7年度補正予算における国の経済対策として「災害時歯科保健医療提供体制の整備」および令和8年度当初予算における、「市町村が実施するフッ化物洗口の取り組みへの支援拡充など、子どもの歯の健康づくりと学校現場の負担軽減を図る方針」が示されました。県政全体の予算説明において、歯科に関する施策が2つも挙がるのは初めてのことであり、県ならびに県議会との良好な関係の賜物であると確信しております。今後も県歯連盟と連携を図り、我々の政策実現に向けて努力をしてみたいと思いますので、先生方もご協力をお願い申し上げます。



3. 議長選出：牛島会長
4. 議事録署名人：神山・永松監事、牛島会長
5. 会務報告：(自：1月23日～至：2月19日)
 本会総務：各郡市長・専務理事連絡会議、
 理事会、常務理事会
 学 術：学術講演会
 社会保険：近県歯社会保険担当者会議
 地域保健学校歯科：日学歯加盟団体長会
 地域包括ケア：がん拠点病院研修会、介護者
 歯科実技研修会
 広 報：広報アンバサダー打合せ、熊歯会
 報3月号校正
 医療対策：医療相談・苦情対応
 厚生・医療管理：復職支援研修会
 センター：50周年記念式典、九州各県連絡協
 議会
 学 院：学院解剖学見学実習、教務委員会、
 特別講義
 国保組合：組合監査、国保理事会
 以上、各担当役員より報告がなされた。
6. 報告事項：
 1. 退会会員について
 2. 会員の表彰について
 [令和7年度 熊本県医事・薬事・健康
 づくり功労者及び優良団体等知事表彰]
 ・町田由美子 会員 (熊本市)
 ・船津 雅彦 会員 (熊本市)

- 表彰式：令和8年2月13日(金)
於：熊本県防災センター
3. 令和8年度熊本県歯科医師会会計収支予算書(案)及び積立金収支予算書(案)について
 4. 「こどもシゴト博2026 in 熊本」出展依頼について
 5. 事業実施報告書について
 - ①熊本県歯科衛生士会共催 学術講演会
 - ②熊本県薬剤師会共催 多職種連携推進研修会
 6. 1月末会計現況について
 7. 連絡事項：
 1. 熊本県歯科医師会創立120周年記念事業について
 2. 3月行事予定について
 8. 承認事項：
 1. 新入会員の承認について
【承認】審議の結果、第1種会員1名の入会を承認した。
 2. 関係機関・団体からの役員等の推薦依頼について
 - ①労災協力医 / 熊本労働局
【承認】推薦：椿副会長
 - ②評議員 / 公財) 肥後医育振興会
【承認】推薦：牛島会長(任期：令和8年3月5日～令和11年6月開催評議員会終結時)
 - ③生活保護医療扶助事業に従事する歯科嘱託医 / 熊本県社会福祉課
【承認】推薦：椿副会長(任期：令和8年4月1日～令和9年3月31日)
 3. 後援名義使用依頼について
【承認】①創立60周年記念事業「県民公開講座」/ 公社) 熊本県歯科衛生士会
【承認】②第17回とっておきの音楽祭 at 熊本駅前アミュひろば / NPO法人オハイエくまもと
 9. 議題：
 1. 関係機関・団体への会費等の納入について
【可決】①令和7年度 法人会員/熊本県総合保健センター(日本対がん協会熊本県支部)：4口・2万円
【可決】②令和7年度年会費/全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会：1万円
 - 【可決】③令和7年度運営補助金/熊本県歯科衛生士会：50万円
 2. 令和7年度委託・補助事業予算書(案)について
 - ①ヘル歯一元気8020支援事業
 - ②介護者歯科実技研修事業
 - ③災害時歯科保健医療提供体制整備事業
 【可決】上記3件の国および県による委託・補助事業について、今年度補正予算を編成するための予算案作成について説明。審議の結果、原案通り可決した。
 3. 令和7年度熊本県歯科医師会会計収支補正予算書(案)及び積立金収支補正予算書(案)について
【可決】審議の結果、原案通り代議員会へ上程することを可決した。
 4. 隣接土地購入並びに購入に伴う積立金取崩について
【可決】職員駐車場横の土地購入費に充てるための積立金取崩について提案。審議の結果、原案通り代議員会へ上程することを可決した。
 5. 令和7年度第2回臨時代議員会日程資料について
【可決】審議の結果、議事の第4号議案と第5号議案の順序を入れ替えることとし、日程を可決した。
 6. 令和7年度第2回臨時代議員会会務報告について
【可決】審議の結果、原案通り代議員会で報告することを可決した。
 7. 令和7年度第2回臨時代議員会タイムスケジュールについて
【可決】審議の結果、議事の第4号議案と第5号議案の順序を入れ替えることとし、タイムスケジュールを可決した。
 8. 会館管理及び会館使用料について
【可決】審議の結果、会館管理をブルーウィング株式会社へ、消防設備点検についてはニッタン株式会社へ委託する。
使用料については、平日料金は現行のまま据え置き、休日料金については現行料金に4,000円を加算した金額で

貸し出すことを可決した。また、夜間の貸出し（内部会議を含む）の退館時間を21:30と周知する。

9. アンバサダーキャッチコピー等の選定について

【可決】 広報アンバサダーとして金子帆南氏（T1 Missスマイルコンテスト2021準グランプリ）を選定した旨を説明。

アンバサダー名称およびポスター用キャッチコピーについて多数決により可決した。

10. 事業企画書について

- ・第21回障害者歯科アクティブネットワーク九州2026（学術集会）熊本開催

【可決】 審議の結果、原案通り可決した。

11. 一般社団法人熊本県歯科医師会各種規程の一部改正（案）について

- ①就業規程
- ②契約職員等就業規程
- ③育児介護休業等に関する規程
- ④給与規程

【可決】 審議の結果、原案通り令和8年4月1日より施行することを可決した。

10. 協議：

1. エフエム熊本「歯とお口の情報発信コーナー」について

- ・協議の結果、メールにて各所管から意見を募り、次回の常務理事会と理事会へ再上程することとした。

11. 監事講評：

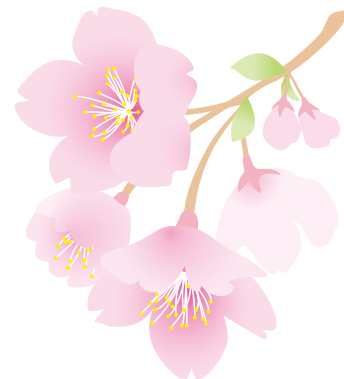
神山監事：「現在、歯科現場において浸潤麻酔薬の不足が深刻な問題となっております。購入や注文に際して多大な苦勞を強いられている状況ですが、同様に抗生

剤についても、供給が以前よりは改善しつつあるものの、依然として不安定な状況が続いています。これらの供給不足の根本的な原因が不透明な部分もあり、これまで安定して供給されていた薬剤が、なぜ突如として注文できなくなる事態に陥っているのか、現場には困惑が広がっております。こうした喫緊の課題に対し、日歯へ現状を照会することで、事態の把握や解決の糸口が見えてくるものなのでしょうか。」

永松監事：「先般の九地連協議会において、日歯の高橋会長より多岐にわたる課題提起と、歯科医師会としての取り組みについてお話をいただき、依然として大きな課題を抱えている現状を再認識しました。明るい兆しとしては、高市総理が施政方針演説で「歯科健診の推進を通じた攻めの予防医療」を掲げられました。これにより「国民皆歯科健診」の実現に向けた機運は、高まったものと捉えております。一方で、診療報酬改定案については、全体で3.09%の引き上げとなるものの、技術料の改定率は0.31%に留まっております。診療報酬が本来果たすべき役割に鑑み、診療行為への適切な点数配分を考慮いただきたいと思います。また、広報活動の一環として、ラジオ番組の聴取率を確認するとともに、番組内容についても、例えば「歯科医療を安心・安全に受診するためのポイント」といった、県民が求めている情報を発信項目に加えることは、非常に有意義ではないでしょうか。」

12. 閉会：工藤副会長

（広報 秋山 清）





O-HATを用いた口腔アセスメント

— 第1回介護者歯科実技研修会 —

地域包括ケア

1月31日(土)午後3時30分より県歯会館4階ホールにて、東京科学大学大学院 地域・福祉口腔機能管理学分野 松尾浩一郎教授による標記研修会が行われた。参加者は他職種も含め61人で特に介護職の方の参加が多かった。

牛島会長より、今回の研修は自施設での口腔ケアの実践力を高める研修になるだろうとの挨拶の後、松尾教授より「自施設の口腔ケア、適切にできていますか？利用者の健康を守るO-HATを用いた口腔アセスメント連携」という題目のもと講演が始まった。



他職種を含め、たくさんの方にご参加いただいた

口腔内では細菌はバイオフィルムというかたちで存在していることが多く、バイオフィルムを落とすにはブラッシングが必要であり、きちんとした口腔ケアをすることで始めて肺炎のリスクは減る。

そこで施設では口腔ケアの手技を標準化し、職種間連携のための口腔アセスメントが必須になってくる。その口腔アセスメントを



松尾教授を囲んで

的確に行うための手段として今回はO-HAT (Oral Health Assessment Tool) を利用する方法を紹介された。

O-HATは口腔内の診る場所を決め、その状態を数値化するものであり、口腔内の8項目(口唇 舌 歯肉・粘膜 唾液 残存歯 義歯 口腔清掃 疼痛)を0=健全 1=やや不良 2=病的の3段階に分けて評価するもので、東京科学大学大学院地域・福祉口腔機能管理学分野のホームページやAsahiのホームページなどからダウンロードできるとのことので例をあげながら評価の仕方をご説明された。特に義歯については誤飲のリスクもあり、就寝時の装着で肺炎のリスクが高まるという3年追跡調査の結果も出ているというお話もされた。

後半の実技ではどのように口腔内を評価していくかの説明の後、O-HATを使用して互いの口腔内を評価する相互実習などが行われた。口腔ケアについても、開口が難しい方のアプローチの方法なども手技を交えて説明され、実践に役立つ実技となった。



相互実習の様子

その後の質疑応答では多数の質問のほか、参加者自らの自施設の手技などを紹介する場面もあり、かなり活発なものとなった。

今回の研修会は参加者の多職種連携と口腔内に関する関心度がうかがえる大変有意義なものであった。

(川野 智美)



正しい口腔ケアと定期的な歯科受診が重要

— 第2回介護者歯科実技研修会（人吉球磨開催）—

地域包括ケア

2月18日(水)人吉市の鍋屋本館会議室にて、標記研修会が行われた。参加者は歯科関係者21人、介護福祉士等施設系職員31人、行政6人、計58人であった。

研修会は立山理事の挨拶で始まり、次に園田委員長による「介護の現場で必要とされる口腔ケアについて」の講演が行われた。



講演を行う園田委員長

講演では、口腔内は細菌が多いが全て除去する必要はなく、口腔ケアはプラークコントロールを行うことで口腔内の細菌数のバランスを保つという主旨で行うと良い。また口腔ケアは全身疾患にも影響すると言われているが、口腔内の汚れは洗口剤などでは除去しきれないので、歯ブラシによる機械的な清掃が重要である。そして経口摂取を行わなくなった症例では、口腔内の汚染が重篤化しやすく、他者介入による口腔ケアがさらに必要となるとの話があった。



歯科関係者以外のたくさんの方にもご参加いただいた

また、総義歯の症例でも、義歯の汚れが歯肉の炎症や誤嚥性の肺炎のリスクになるため、定期的な歯科受診を行い、義歯洗浄を行うことが重要であること、さらに肺炎予防には口腔ケアと併せて栄養摂取が重要で、肉や魚といったタンパク質摂取には咀嚼食塊形成といった口腔機能も重要になり、口腔機能の低下は栄養摂取のみならず、窒息のリスク増加にもつながることから口腔機能管理も重要となってくる。また、動揺歯や補綴物の脱離等で誤飲や誤嚥の事故も介護の現場では起こるので、口腔ケアしながら動揺歯や補綴物の脱離の確認等も必要であり、定期的な歯科受診も効果的である。さらに要介護高齢者は口腔乾燥の症例も少なくないので、口腔ケアを行う際には保湿を行うことも重要である等の話があった。



研修会は無事に終了した

講演の後は、オブラートを乾燥した痂皮にみたくて、保湿を行いスポンジブラシで除去していくといった相互実習が行われ、最後に人吉球磨歯会の齋藤会長より閉会の挨拶が行われ、会は終了した。

口腔ケアを行うことは単に口腔清掃のみならず、栄養摂取や誤嚥誤飲防止にも役立つのと同時に、定期的な歯科受診も重要であることが本研修会で再確認された。

(園田 隆紹)



骨吸収抑制剤による がん骨転移治療時の医科歯科連携

— がん患者医科歯科連携研修会 —

地域包括ケア

3月1日(日)県歯会館4Fホールにて、標記研修会が開催された。今回はがん治療と薬物関連顎骨壊死について医科と歯科からの見解とその対応等についてお話しいただいた。

医科からはくまもと森都総合病院 腫瘍内科の采田志麻部長より「動ける・噛める人生を全うするための骨転移の究極のチーム医療」という演題でご講演いただいた。

がんの骨転移の病態として乳がん・前立腺がん・肺がんによく、骨転移によってSRE（骨関連事象すなわち病的骨折・脊髄圧迫・高カルシウム血症）が生じるとQOLが低下しがんと治療が継続困難になる可能性がある。そのためにSREを起こさない、起こしたら速やかに回復させる必要があることを説明された。

次に骨転移のマネジメントとして骨転移の診断、治療オプション、患者ケア等について説明があり、症例を提示しながら椎体の固定手術や放射線療法、骨修飾薬による治療を紹介され、SREの予防や痛みの管理を行ううえで骨転移の早期発見と適切な治療の重要性を強調された。

骨修飾薬については、ビスフォスフォネート製剤（ゾメタ[®]）・ランクル阻害剤（ランマーク[®]）の作用機序に基づく特徴を紹介され、がんの種類や抗がん剤治療の周期によって使い分けられていること、歯の治療の事を考えるとランマークを使いながら必要な時に休めるようにするのが利点であること、今後点滴の抗がん剤から皮下注の抗がん剤への移行が予想され、皮下注のランマークの使用が増えることを紹介された。

まとめとして、骨転移患者を治療する際の高職種によるチームワークの重要性や、患者のケアにおいて身体的および心理社会的側面の両方に取り組む包括的なアプローチの必要性についても説明された。



采田部長、中島部長を囲んで

歯科からは国立病院機構熊本医療センター 歯科口腔外科の中島健部長から「がん骨転移の際の骨吸収抑制剤について歯科医師が行うべきチーム医療」という演題でご講演いただいた。

①低用量（骨粗しょう症）と高用量（がん骨転移）のMRONJの違いについて

がん骨転移患者では骨粗しょう症の患者に比べて高用量であり、発症頻度が高く（骨粗しょう症が0.1%に対し1～15%）、抗がん剤治療により免疫低下状態でリスクが高く、難治性で広範囲な腐骨分離や病的骨折になりやすい等の特徴があるので、周術期等口腔機能管理を算定してしっかり管理することが重要と強調された。

②骨吸収抑制剤投与前に行うこと

- ・ランマーク[®]の重要性とMRONJのリスクについての説明を行うこと
- ・MRONJのリスク部位を把握し、予後を鑑み、処置を検討する
- ・抗がん剤や糖尿病の有無などのリスク因子を把握する
- ・必要に応じて口腔外科医と連携する
- ・投与後も口腔管理が必要なことを指導する

③骨吸収抑制剤投与後の注意

- ・骨硬化が進んで抜歯後に骨吸収が起こらず、骨鋭縁が残るため、抜歯時に歯槽骨整形

を行い、骨の露出を避ける

- ・投与後は定期的に口腔管理を行う
- ・リスク部位をしっかりと監視をして、MRONJの早期発見を行う
- ・投与後に外科処置が必要な際は口腔外科医と相談する

④MRONJが発症した時に行うこと

- ・がん主治医にMRONJが発症したことを連絡し、いつから投与されているか照会し、休

止を検討していただく

- ・発症部位を定期的に生食水で洗浄
- ・できるだけ早く口腔外科へ紹介受診させる
最後に開業医の先生方の「予防・早期発見・早期介入・継続管理」ががん患者を顎骨壊死から救うので、今後も連携をしっかりとっていくことを望まれた。

(三森 康弘)



お知らせ

「日歯メールマガジン」、「県歯メールニュース」への配信登録のお願い

日歯や本会では会員への情報公開・伝達サービスの一環として、メール配信を利用しております。

本会からは毎月20日頃、本会の主催する講演会情報を中心に配信しております。月初めの発送物にて案内チラシもお送りしておりますが、メールニュースをご覧になることで、どこにいても閲覧できます。

登録は日歯ホームページのメンバーズルームや県歯ホームページの会員専用ページから可能ですので、ご登録がまだの方は是非ご登録をお願いします。



県歯メールニュースの
登録はこちら



日歯メールマガジンの
登録はこちら

(広報委員会)

訃報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



米花 征貢 先生

2026年3月22日 ご逝去 53歳

- ・郡市名：人吉球磨
- ・入会年月日：令和5年8月22日



転倒骨折と骨粗鬆症の予防について考える

— 第16回熊本県医療・保健・福祉連携学会 —

地域包括ケア

3月1日（日）県医師会館にて、標記学会が開催された。大会長を務める福田稔県医師会会長の挨拶の後、熊本大学大学院生命科学部整形外科学の宮本健史教授による基調講演「増え続ける骨折～転倒リスクと命に係わる骨折の危険性～」が富永孝治県薬剤師会会長の座長のもと行われた。

高齢者の骨粗鬆症を背景とした脆弱性骨折、中でも大腿骨近位部骨折が顕著に増加している。特に熊本県は全国で大腿骨頸部骨折の発症が最も多い。大腿骨骨折は1年以内の死亡率は10%を超え、5年生存率は50%を下回るなど、生命予後を極めて悪化させる疾患である。熊本大学とその関連施設とともに実施した調査ではそのほとんどが転倒によるものであった。しかし骨粗鬆症の治療と予防ガイドライン2025年版においても投薬開始基準として、転倒のリスクは評価項目に入っていない。WHOによる骨折リスク評価ツールFRAX[®]も転倒のリスクは評価項目に入っておらず、75歳未満を対象としたものである。骨折が最も多いのは80代とされていることから日本の高齢社会の実情に合わせた大腿骨近位部骨折の骨折リスク評価ツールを作成することが望ましく、今後ロコモ度テストなども使用し骨粗鬆症の早期予防などを広めていくことが必要なことを講演された。

その後関連発表にて「歯科から始まる転倒骨折とMRONJの現状について」と題し、県歯域包括ケア委員会の高尾委員より、牛島県歯会会長を座長として、呼吸口腔機能の低下や義歯の未使用により転倒リスクが約2倍高まることから、オーラルフレイル予防のための口腔機能検査の重要性を話された。また、歯科は検診目的の患者も受診することから早期に発見できる可能性があり、骨粗鬆症によるMRONJ予防においても多職種他施設と

OHATなど共通の評価ツールを使用して連携が必要なことを発表した。



講演される高尾委員

次に「薬剤師がつなぐ転倒予防～多職種で評価し、守る高齢者ケア～」と題して森直樹薬剤師が、久保田忍県薬剤師会常務理事の座長のもと、高齢者の転倒には薬が影響している可能性があり、特に抗コリン負荷の評価薬物調整の重要性などを発表し、県放射線技師会からは「協会けんぽ健診における骨密度測定の最適化を考える～大腿骨頸部単独測定は本当に十分なのか？～」と題し富田秀樹技師が、田上真之介県放射線技師会会長の座長のもと、骨粗鬆症の検診において見逃しリスクを避けるため腰椎と大腿骨の2か所の測定を協会けんぽ健診では導入すると発表した。

最後に金澤知徳県医師会副会長を座長として、講演者一同での総合討論会にて活発な質疑応答が繰り広げられ、有意義な学会及び県民公開講座となった。

(川野 智美)



次世代のメンテナンス・スタンダード ～復職から『一步先』のプロフェッショナルへ～

— 復職支援・離職防止講演会 —

厚生・医療管理

2月8日(日)、熊本歯科衛生士専門学院において、フリーランス歯科衛生士の野口純佳先生を講師にお招きし、「最近のメンテナンスの風潮について」と題して標記講演会が開催された。本研修は現地参加とウェビナーによるハイブリッド形式で行われ、復職支援のみならず、現役で活躍する歯科衛生士も多く集まる活気ある会となった。

前半の講演では、メンテナンスの真の目的と重要性の再確認から始まり、最新デバイスであるエアフローの特性、そしてOHI（口腔衛生指導）の本質について多角的な視点からご解説いただいた。



野口先生とご参加頂いた皆様

手技に関しては、エビデンスに基づいた処置のポイントや、新ツールのスムーズな導入方法を伝授いただいた。行動変容を促すアプローチについては、単なる技術指導に留まらず、患者の心理的・社会的背景にまで思いを馳せ、いかに行動変容へと繋げるかという

OHIの勘所は、聴講者の心に深く響く内容であった。

後半の現地実習では、エアフローの使用法とOHIの実践トレーニングが行われた。エアフローの実習では初心者にも分かりやすい基本操作から、経験者向けのポジショニング、レスト、効率的なバキュームテクニックに至るまで、野口先生によるきめ細やかな直接指導が行われた。



野口先生による現地実習

本講演会は「復職支援」の一環として企画されたが、その内容は現役の歯科衛生士にとっても、自身のスキルをさらなる高みへと引き上げる絶好の機会となった。

参加者からは「さっそく明日からの診療に活かしたい」といった前向きな声が多く寄せられ、個々の臨床意欲を高める非常に有意義な時間となった。

講師の野口先生、ならびにご協力いただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

(二渡 淳)



近県で連携し、情報共有を行っていく

— 第27回近県歯科医師会社会保険担当者会議 —

社会保険

2月14日(土)午後3時より山口県歯会館において、標記会議が開催された。今年度の担当は山口県で、山口県、長崎県、香川県、本県の参加であった。本県からは、牛島会長、野田・園田理事が出席した。会議は下村山口県歯副会長の開会の挨拶で始まり、担当県である小山山口県歯会長の挨拶、そして、豊嶋香川県歯会長、牛島県歯会長、山田長崎県歯副会長の順に挨拶が行われた。

出席者紹介、座長選出後、日歯の社保関係報告が行われ、その後各県より出された議題の協議が行われた。



担当者会の様子

報告事項として

- ・令和8年度診療報酬改定への基本方針（物価賃金上昇対応、人材不足対応、環境変化機能分化と連携地域医療体制、安心・安全の医療の推進、医療保険制度の安定・持続可能性の確保提供体制の効率化等）
- ・歯科治療の需要についての論点（在宅、障がい者歯科医療、へき地診療、デジタル化等）
- ・改定への重点項目の選定（CAD（Ⅲ）の要件撤廃、麻酔の算定拡大、金属アレルギー患者へのノンクラスプデンチャーの新設等）
- ・改定率説明
- ・ベースアップ評価料について

があった。今後これらの項目に沿った改定や保険計画が進められていくことになるだろう。

その後各県からの、協議事項（27題）の質疑応答を行った。各県での審査の取り決め事項や現在の指導の状況、施設基準の届け出状況等を協議確認した。

九州や近県の連携で社保関連情報の交換を行うとともに各県の情報周知の方法や取り組みについて互いに情報共有していくこととなった。

最後に、角山口県歯専務理事の挨拶で閉会となった。

（理事 園田 隆弘）



熊本市歯科医師会

歯周病治療における役割分担の重要性

— 第3回歯周病対策プロジェクトセミナー —

1月15日(木)午後7時30分より県歯会館4階ホールにて、標記セミナーが開催された。東歯科医院の東克章先生に、「歯科医師と歯科衛生士の役割分担、歯科衛生士の卒後教育」という演題でご講演いただいた。渡辺会長の開会の辞に続き、竹中委員の司会のもと、講演が行われた。

〈診断およびX線評価の考え方〉

X線診断においては、歯根長1/3以上の骨吸収を重症(gravis型歯周炎)の目安とし、1/3未満を軽症(levis型歯周炎)と判断する。全顎的な印象に左右されるのではなく、1歯ごとに骨吸収量、垂直性欠損、根分岐部病変の有無を個別に評価することが重要であるとされた。特に隣接面の楔状吸収や分岐部2～3度病変(gravis-complicata型歯周炎)は、治療難易度を大きく左右する所見として重視された。



たくさんの方が受講された

〈ステージ分類と役割分担〉

ステージ1～2の症例は、歯科衛生士主体での管理が可能であり、プロービングデプスやBOPを継続的に評価し、安定している場合には過度な来院頻度を必要としないケースも多いとされた。一方、ステージ3以上では歯科医師の関与が不可欠となり、軽症例の経験を積み重ねながら段階的に重症症例へ対応していくことが推奨された。再評価は歯科医師と歯科衛生士による「4つの目」で行うことで、診断精度と安全性を高める。

〈基本治療と再評価〉

基本治療では炎症コントロールを最優先と

し、炎症が強い状態での強圧SRPは組織損傷や審美障害を招く可能性があるため避けるべきとされた。

再評価は最終SRP終了から原則3か月後にを行い、改善が不十分な部位には再SRPを実施する。それでもプロービングデプス6mm以上かつBOP陽性の部位は外科治療の適応とする段階的な判断プロトコルが示された。

〈外科治療・SPT〉

根分岐部病変は歯周治療において最も管理が難しい領域であり、保存的アプローチを基本とする。ヘミセクションやトライセクションは適応を厳選し、術後は連結などにより機能維持を図る必要がある。再生療法は、十分なプラークコントロールと出血抑制が前提条件であり、拙速な介入は避けるべきとされた。



講演される東院長

SPTは月次の届出体制を整備し、4mm以上の部位を重点管理対象とする。検査・説明・清掃を均等に配分することで、安全性と持続性の高い歯周管理を実現する。

歯周病治療の本質は、疾患を完全に治癒させることではなく、進行を阻止し、患者の咀嚼機能と生活の質を長期的に維持することにある。BOPを重視した評価、段階的な治療介入、明確な役割分担、そして症例記録の蓄積が、臨床の再現性と質を高める。若年期からの早期介入や家族単位でのリスク管理を含め、歯周病治療は中長期的視点で設計されるべきであると結論づけられた。

(宮津 竜也)

熊本市歯科医師会

明日から使える全身管理 ～見逃さない・迷わない・チームで動く～

— 第3回学術講演会 —

1月31日(土)午後3時より県歯会館3階会議室にて、講師に九州歯科大学 歯科麻酔疼痛管理分野の左合徹平教授を迎え、標記講演会が開催された。(参加者32人)

渡辺会長の挨拶後、左合教授の講演が行われた。日本は超高齢社会に突入し、歯科診療の現場においても全身疾患を合併する患者が急増しており、全身管理リスクを前提とした診療体制の再構築が求められている。

歯科治療中に発生しうる患者急変を想定し、バイタルサインの基本、偶発症の鑑別と初期対応、緊急時の体系化された初動、そしてチーム連携と訓練の重要性について整理し、「見逃さず・迷わず・チームで動ける」臨床判断力の基礎として講演が行われた。安全管理の基盤となるのは、血圧・脈拍・SpO₂といったバイタルサインの正確な把握であり、緊急時対応において最も重要なのは初動である。評価→通報→酸素投与→循環管理→記録という流れを院内で標準化し、A4一枚のフローとして可視化することで、迷いや遅れを最小限にできると述べられた。

また、歯科診療で遭遇しやすく、重篤化しやすい偶発症として、血管迷走神経反射、過換気症候群、アナフィラキシー、低血糖、局所麻酔中毒、誤飲・誤嚥・気道異物などが挙げられ、それぞれの対応について詳しく述べられた。



講演をされる左合教授

超高齢社会では、日常診療そのものがすでにリスクを内包している。「今まで運が良かった」では通用しない時代において、緊急対応の標準化、定期的な訓練、役割分担の明確化を通じて、スタッフ全員が共通認識を持ち、チームとして動ける体制を構築することが歯科医療安全の核心であり、見逃さない、迷わない、そしてチームで動く、その積み重ねこそが、歯科診療の安全を確実なものにするまとめられた。参加者一同知識の研鑽になった。講演は約3時間にわたり行われ、最後に学術担当の山口理事より感謝状の贈呈を行い、講演会を終了した。

(久木田 大)



水俣・芦北郡市歯科医師会

いざという時のために救命講習

— 学術講演会・新年会 —

1月17日(土)午後4時よりあらせ会館にて、水俣消防署の職員による救命講習が行われた。今回は歯科医院内での連携も必要なため、会員だけでなくスタッフも参加した。

井上会長の挨拶で始まり、まず胸骨圧迫の実習を行った。胸骨圧迫では100回／分のリズムで2分間、5cm程度胸部が沈むよう圧迫する必要があるが、1分を過ぎたあたりから圧迫が浅くなる人が多かった。



胸骨圧迫実習の様子

次に人工呼吸、AEDと実習を行い、最後に全体の流れについて実習した。救命の流れは以前と比較して簡略化され、呼吸の確認にあまり時間をかけず速やかに胸骨圧迫するよう変化しているということだった。会員の質問も多く、診療中に不慮の事態が起こった際の疑問が解消されたように思う。今回の研修を披露する場が来ないことが好ましいが、もしもの時に今回の研修を役立てたい。

その後、午後6時より同あらせ会館にて新年会も実施した。参加者11人と前年と比較して少なかったが、会は大いに盛り上がり楽しい時間が過ぎた。少人数だからこそ会員間の距離が近く、臨床の疑問なども聞きやすいため、知識を深める意味でも親睦を深める意味でも有意義な新年会となった。

(宮城 光志)



阿蘇郡市歯科医師会

会は終始和やかに行われた

— 令和8年 新年会 —

1月31日(土)午後6時より熊本ホテルキャッスルにて、標記会が開催された。

園田専務理事の司会により開会し、インフルエンザにより欠席となった佐藤会長に代わり、園田専務理事より会長挨拶が代読され、会員各位への謝意ならびに本会活動への理解と協力をお願いする内容が伝えられた。

来賓として、阿蘇郡市医師会 上村会長、阿蘇郡市薬剤師会 榎会長、牛島県歯会長よりご挨拶を賜り、地域医療における多職種連携の重

要性について改めて認識を深める機会となった。

乾杯は工藤県歯副会長のご発声により行われ、「鯰」にまつわる話題を交えたご挨拶により、終始和やかな雰囲気のもと懇談が進められた。締めは安光副会長のご発声により三本締めが行われ、盛会のうちに閉会した。

会員相互の親睦を深めるとともに、新年の方針を共有する有意義な会となった。

(多田 真一郎)



新年会の様子



工藤県歯副会長のご発声により、乾杯



上益城郡歯科医師会

歯科医師・歯科技工士の連携が重要

— 定例研修会 —

2月10日(火)県歯会館において、標記研修会が開催された。今回は、インターデンタルラボラトリーの須崎慎一代表を講師に迎え、「噛める義歯」の製作をテーマにご講演いただいた。

高齢化が加速する現代社会において、可撤性義歯の重要性は再認識されている。本講演では、義歯製作における一連の工程——印象採得、咬合採得、人工歯配列、床形態の決定、そして加工精度に至るまで、実際の臨床現場でどのように規格化し、対応すべきかが詳説された。



スライドを用いて説明される須崎代表

須崎代表は、臨床結果のバラつきを抑え、予知性の高い補綴物を提供するためには、各ステップにおける客観的な指標と厳格なプロセス管理が不可欠であることを強調された。提示された多くの症例と具体的な技工知見は、歯科医師・歯科技工士の連携の重要性を改めて浮き彫りにするものであり、参加者にとって極めて示唆に富む内容であった。

研修会終了後は、近隣の「焼肉ソウル」にて懇親会が催された。講師を囲み、講演内容の深掘りから日常の臨床課題に至るまで、活発な意見交換が行われた。会員間の親睦を深めるとともに、今後の診療への意欲を高める有意義な機会となった。

(二渡 淳)



報告

県市トップへの新年ご挨拶

～ 木村熊本県知事表敬訪問 ～

1月5日(月)、牛島会長、宇治専務理事が年始挨拶のため木村熊本県知事を訪問した。

牛島会長から、昨年11月開催のくまもと健康づくり県民横丁の歯科ブースに来ていただいたお礼とともに、歯科医院が令和6年には20件減ったことや、本会員の平均年齢が63歳であること、後継者がいない若しくは決まっていない歯科医院が7～8割あることなどの具体例をあげながら、歯科医師の高齢化や後継者不足、地域偏在の課題等について説明され、痛くなってからの治療から予防医療へと歯科のイメージを変えていきたいと話された。

木村知事からは、「自分で歯のメンテナンスをしていくというインセンティブがもっと必要であり、口腔機能が低下したら(健康の維持は)厳しくなるということを訴えていく必要がある。しっかりとできる限りの支援をさせていただく」などのお話があった。

訪問には、県歯科衛生士会から中村会長、伊形副会長も同席された。



県知事訪問

～大西熊本市長表敬訪問～

続いて、大西熊本市長を訪問した。

大西市長は本会がかねてより要請していた障がい者歯科診療を行う宮崎歯科福祉センターの視察に行かれたとのことで、設備や環境が整っていることに感心され、このようなことに行政がしっかりテコ入れしていかなければならないと改めて感じたと話された。また、市長のYouTube「カズチャンネル」で、歯のことなどテーマを決めて、対談などあまり堅苦しくならないような形でやってみようと思っており、本会ともいろいろ連携をしていきたいとのことであった。



熊本市長訪問

(事務局長 永江 昌二)

受章・受賞おめでとうございます

— 令和7年度 —

叙 勲



瑞宝双光章
矢毛石 陸男 会員

叙 勲



旭日双光章
渡辺 賢治 会員

叙 勲



瑞宝双光章
赤城 公德 会員

厚生労働大臣表彰



永松 聖隆 会員

文部科学大臣表彰



矢毛石 豊 会員

日本歯科医師会会長賞



水上 正太 会員



森 隆文 会員

日本学校歯科医会会長表彰



伊東 隆利 会員



北野 正民 会員



太田 良生 会員



田島 貞子 会員



原田 秀一郎 会員



澤木 孝明 会員



児玉 睦雄 会員



荒木 靖 会員



奈良 健一 会員



渡辺 賢治 会員



田上 大輔 会員



浦田 健二 会員



守永 純一 会員



富永 浩義 会員



伊藤 明彦 会員

熊本県知事表彰



船津 雅彦 会員



町田 由美子 会員

熊本県高等学校保健功労者表彰

清村 龍朗 会員

杉本 雄二 会員

学校保健功労表彰

若江 秀敏 会員

豊田 経学 会員

原田 秀一郎 会員

鬼塚 友文 会員

林 秀樹 会員

松下 哲也 会員

熊埜御堂 誠 会員

山根 靖司 会員

多田 まゆみ 会員

古田 洋介 会員

蓑田 太司 会員

井手 裕二 会員

宮田 正孝 会員

吉崎 久次 会員

加藤 恭裕 会員

平井 淳也 会員

田中 弥信 会員

岩崎 晃司 会員

高水間 奨 会員

松枝 勝興 会員

園田 隆弘 会員

(順不同)

報告

最優秀賞に長本百華さんが選出

— 歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール表彰式 —

2月18日(水)、日本学校歯科医会加盟団体長会議にて標記行事が日歯会館にて開催された。

「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」は、日本学校歯科医会が主催し、次の世代を担う幼児・児童生徒への口腔保健に関する理解と認識を高める目的で、毎年実施している。

本事業の歴史は古く、昭和36年(1961年)から日歯が行ってきた「歯の衛生に関する図画・ポスターコンクール」を、昭和52年(1977年)より「歯科保健に関する児童の図画・ポスターコンクール」として、日本学校歯科医会が引き継ぎ、平成10年(1998年)より「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」と名称を変え、現在に至る。

本コンクールは、全国の53の加盟団体を通して、幼稚園、小学校(低学年・高学年)、義務教育学校、中学校、中等教育学校、高等学校、特別支援学校の幼児・児童生徒による作品を募集し、毎年9月末頃に行われる審査委員会において、最も優れている作品として各部門より最優秀賞6点、優秀賞12点を選出している。地区で選出された作品は、佳作として表彰される。

「小学校低学年の部」は最も応募数が多い部門で、今回は全国から約47,200点の応募があった。最優秀賞に長洲町立長洲小学校3年生の長本百華さんが見事選出され、授賞式にも足を運ばれ賞状を授与された。おめでとうございます。



真剣な面持ちで登壇する長本さん



牛島県歯会長と記念撮影

(審査委員長の高島依子先生による総評・画評)

「小学校低学年の部では、大きな口を開けて歯みがきをする絵は多くあります。この作品も構図や状況設定はオーソドックスですが、描き方のこだわり、独特な色合い、幾何学的な表現が目目を引く作品です。全体の黄色系に対して補色の青色を使って画面にメリハリを生んでおり、色感の良さを感じます。口の中の泡や歯の陰影がリアルに描写され、服の模様がリズムカルで細部まで自分の世界を描き切る力強さを感じます。」

他にも「小学校高学年の部」にて山鹿市立めのだけ小学校5年生の朝倉奈々美さんが佳作を受賞された。おめでとうございます。

(副会長 大林 裕明)



長本さんの作品 (是非、HPでカラーでご覧ください)

九地連報告

令和8年度事業計画・予算を承認

— 第2回九州地区連合歯科医師会協議会 —

2月21日(土)午後3時から標記協議会が熊本市の「ホテル日航熊本」で開催された。

川端貴美子九地連専務理事の開会の挨拶の後、江里能成九地連会長、開催県である牛島隆熊本県歯会長より挨拶があった。引き続き、来賓の高橋英登日歯会長は挨拶と時局講演で、歯科界の現状と課題、歯科医療への社会的評価の高まりなどについて説明し、「金パラ高騰に対し如何なる対策を取るか、歯科医師数が減少に転じ先手対応の必要性、諸外国と比べ日本の歯科医療が非常に安価である事実を国民にアピールすべき課題」など歯科の重要性を理解している高市総理の今こそ、実現に向け行動すべきであると述べた。引き続き、議長に牛島会長、副議長に次期開催県である伊地知博史鹿児島県歯会長を選出し、協議会を進行した。



牛島県歯会長による担当県挨拶

報告

1. 日歯報告

伊藤智加日歯専務理事から資料をもとに詳細に説明があった。

2. 九地連報告

川端九地連専務理事より、庶務報告・事業報告等会務報告が行われた。

議事

1. 令和8年度事業実施計画について
2. 令和8年度一般会計予算について

協議

1. 次期協議会の開催

担当 鹿児島県歯科医師会

日時 令和8年8月1日(土)午後2時

場所 鹿児島市「城山ホテル鹿児島」

2. 各県提出協議題

- (1) 在宅歯科医療(居宅)の増加に伴う今後の対策について(佐賀県)
- (2) デジタル化に伴う情報伝達の確認について(宮崎県)
- (3) 決算での前期収支差額の取扱いについて(沖縄県)

3. 日本歯科医師会への質問・要望について
上記の協議題について、各県より現況の報告と活発な意見交換がなされた。

追加として、喫緊の課題である金パラ問題に対し九地連で団結して代議員を通じ日歯へ要望し、現行制度の改革を訴えた。また局所麻酔薬の安定供給に対し更なる日歯からの働きかけを要望した。

最後に、小笹竜起九地連専務理事の閉会の辞により協議会を終了した。



63人が参加し、活発な意見交換が行われた

(広報担当理事 秋山 清)

口腔保健センター新聞

第8号



外来では、障がいをお持ちの方の歯科診療を行っています！ ※休日診療はやっていません×

診療案内	月	火	水	木	金	土	日 祝日
外来診療	★	10:00~13:00 14:00~17:00	休	10:00~13:00 14:00~17:00	10:00~13:00 ◎	10:00~13:00 14:00~17:00	休
IV-s 診療 【日帰り】		●		●			

※設備の都合上、全身麻酔は行えません🙏

★月曜：訪問診療（障がい児・者）

◎金曜午後：診療トレーニング

IV-s（静脈内鎮静法）：午前は【処置中心】、午後は【P管理】にて診療しています♪

九州地区口腔保健センター連絡協議会

令和8年2月12日（木）、Web形式にて、令和7年度九州地区口腔保健センター連絡協議会が開催され、椿センター長、我那覇副センター長、三笠常任理事、川島診療部長、日永主任衛生士、榮衛生士、佐伯衛生士で出席いたしました。

本協議会は、九州地区に設置されている口腔保健センター（筑豊・大分・長崎・熊本・宮崎・鹿児島・沖縄）が連携し、障がい児者歯科医療の充実および地域医療との連携強化を目的として毎年開催され、各センターの役員、診療部歯科医師、歯科衛生士が参加し、現場に即した実践的課題について専門的かつ建設的な協議を行っています。今回は宮崎歯科福祉センターが進行を担当し、事前に各県より提出された協議議題および提案事項をもとに活発な意見交換が行われました。主な協議内容は以下のとおりです。

- 全身麻酔・静脈内鎮静法下歯科治療および患者資料・データ管理体制
- スタッフ教育体制ならびに認定歯科衛生士資格取得支援
- 人材確保および採用体制
- ヒヤリ・ハット事例の共有と医療安全対策
- 地域拠点歯科医院の構築



各センターが抱える課題を率直に共有し、それぞれの取り組みや工夫を持ち寄ることで、障がい児者歯科医療の質の向上に向けた具体的な方向性を確認することができました。九州地区が一体となり使命を果たしていく決意を新たにす、有意義な協議会となりました。

なお、毎年開催される日本障害者歯科学会学術大会においても九州地区口腔保健センター関係者による交流の機会「C8」が設けられており、日頃から築かれている信頼関係が、本協議会における充実した議論を支えています。

次年度は大分県が主幹となり開催予定です。今後も九州地区が連携を深め、障がい児者歯科医療のさらなる発展に努めてまいります。

令和8年度 センター活動目標について

令和8年度 熊本県歯科医師会口腔保健センター 事業計画について

本年度、口腔保健センターでは、障がい児・者歯科診療の二次医療機関としての役割強化を柱に、診療体制の充実と地域連携のさらなる推進に取り組んでまいります。障がいのある方々やご家族が、安心して歯科医療を受けられる環境づくりを目指し、日々の診療と支援に取り組めます。

【障がい児・者歯科診療の充実】

診療スタッフの増員や症例カンファレンスの実施を通じて医療提供体制の強化を図るとともに、障がい児・者の受診トレーニングや相談会・見学会を開催し、受診支援の充実に努めます。初めて受診される方にも安心して来院していただけるよう、丁寧な対応を心がけます。

また、摂食嚥下指導教室（年4回）を継続して実施するほか、全身麻酔下診療の実施に向けた体制整備や、医療的ケア児への歯科診療体制の構築についても検討を進めます。

さらに、各施設・支援学校等での歯科保健指導を引き続き行い、当センター受診者に限らず、県内の障がいのある方々への支援につなげていきます。加えて、専門資格の取得や学会発表にも積極的に取り組み、より質の高い医療の提供に努めます。

【センターの周知活動】

会員の先生方への周知活動として、熊歯会報への定期投稿や郡市での現状報告を行うとともに、ホームページの内容充実にも努めます。

また、施設・支援学校・関連団体に対しては、歯科健診や歯科保健指導に関する広報活動を行い、あわせて県民の皆様に向けて当センターの取り組みをより分かりやすくお伝えできるよう努めます。

【医療機関・関連機関との連携強化】

登録歯科医制度の充実を図り、医療機関連携のさらなる強化に努めます。

障がい特性に関する研修会の開催や開放型医療機関としての取り組みを進め、一次医療機関との円滑な連携体制の構築を目指します。

さらに、病院歯科との連携協議会の開催や、障がい者歯科保健推進協議会の再開に向けた検討を進めるとともに、日本障害者歯科学会や各県歯科大学との連携も引き続き推進します。

本年度も、障がいのある方々一人ひとりに寄り添いながら、安心して歯科医療を受けていただける体制づくりに努めます。地域に信頼され、必要とされる口腔保健センターであり続けられるよう、職員一同取り組んでまいります。

今後とも、会員の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

患者さんの笑顔のために

センターでは、出前保健指導を行っております。

障がい児・者の通所・入所に関わらず施設に保健指導に行っております。

ご希望の際は、口腔保健センター ☎ 096-3443-4382 までお電話お待ちしております。

※患者さんの写真はご本人、ご家族の許可をいただき掲載させていただいております。





「激動の変革期を振り返り、 未来の歯科医療へ託す想い」

八代 上田 忠

父が開業した八代の地で歯科医療の道に邁進し、気づけば八十六の坂を越えようとしております。この度、「Legend ~伝説のささやき~」への寄稿の機会をいただき、万感の思いで筆を執りました。振り返れば、私の歯科医師人生は、時代のうねりと共にあったように思います。

中でも私の記憶に深く刻まれているのは、紆余曲折の末、平成7年から5年間、全国で唯一のフィールド実験地として八代で行われた「医療保険ICカード実験」での日々です。

今でこそ、マイナンバーカードによるオンライン資格確認が当たり前の時代となりましたが、当時はまさに「海のものとも山のものともつかぬ」未知の領域でした。厚生省や社会保険庁、保険課などの行政機関との折衝、そして何より会員の先生方への説明と協力要請。現場の混乱を最小限に抑えつつ、国の医療DXの礎を築くための調査研究に従事いたしました。



熊本県歯科医師会100周年記念式典の挨拶

「なぜ八代で？」「本当に実現可能なのか？」という不安の声と向き合いながら、それでも「これが将来の医療の形になる」という信念を持って推進したことは、苦しくも誇らしい思い出です。あの時の実験結果が、巡り巡って現在の保険証カード化や医療情報のデジタル化に繋がっていると思うと、感慨深いものがあります。この場をお借りしまして、八代歯科医師会の先生方に改めて御礼申し上げますと共に終始ご支援いただいた日本歯科医師会、熊本県歯科医師会に感謝申し上げます。

また、県歯会館の老朽化と、歯科衛生士専門学院の三年制移行に伴う施設拡充という難題が重なった時期も忘れられません。

副会長、そして学院長として、「教育環境の充実こそが、地域医療を支える人材を育む」という一心で、新会館建設と学院の増改築という二大事業の同時進行に挑みました。多くの障害がありましたが、会員の皆様の総意とご協力のおかげで、平成十八年、十九年と無事に竣工を迎えられた時の安堵感は、今も昨日のここのように思い出されます。最新の設備で学ぶ学生たちの喜ぶ顔を見た時、すべての苦勞が報われた気がいたしました。

長年、学校歯科医として子供たちの歯を守り、また審査委員として適正な保険請求の指導にも携わってまいりましたが、私がこれまでの経験を通じて次世代の先生方にお伝えしたいことは、「変化を恐れず、しかし本質を見失わないでほしい」ということです。

技術や制度は時代と共に変わります。ICカード実験の時のように、新しい波は時に脅威に見えるかもしれませんが、しかし、その変化を受け入れながら、より良い方向へ導くことこそが我々の使命ではないかと思っています。一方で、目の前の患者さんに寄り添い、地域住民の健康を守るという歯科医療の「本質」は変わりません。

どうか若い先生方には、先人たちが築いてきた礎の上で、新しい時代の風を柔軟に取り入れ、熊本県の歯科医療をさらに発展させていっていただきたいと切に願っております。

最後になりましたが、本会の益々の発展と会員諸兄のご健勝をお祈り申し上げます。



歯科衛生士専門学院卒業式卒業証書授与

良医を目指して ～患者から愛される歯科医師になるために～

熊本のこどもたちの歯の未来のために、 歯医者が絵本屋をつくりました。

菊池郡市 片山 創

合志市で「合志かたやまこども歯科」を開業しています、院長の片山創です。日々こどもたちの診療をする中で、『もう少し早く関わっていたら』と感じる場面が何度もあります。

熊本は、こどものむし歯が多い地域だと言われてきました。昨年末の新聞では、熊本市のデータではありますが、政令指定都市の中で“ワースト”を脱出した、という明るいニュースもありました。それでも現場にいと、治療が必要になってから初めて歯医者に来る、というケースはまだ少なくありません。歯科医師として強く感じているのは、予防は歯医者の中だけでは完結しないということです。歯を大切にする気持ちは、治療を受けてから身につくのではなく、もっと日常の中で、自然に育っていくものだと思うようになりました。



歯科医院隣接の「絵本屋よかよか」

そこでたどり着いたのが、絵本の力です。遊びや物語を通して、歯みがきや歯を大切にするのが「特別なこと」ではなく、生活の一部として伝わっていく。歯科医療とは少し離れた場所だからこそ、できる関わり方があると感じました。

歯医者はどうしても、「治療をする場所」「ちょっと怖い場所」というイメージを今でも持たれがちです。だからこそ、歯医者に行く前に、もっと気軽に立ち寄れる場所があってもいい。そんな思いから生まれたのが、「絵本屋よかよか」です。

店内には、歯やお口をテーマにした絵本を、少し多めにそろえています。といっても、専門的な説明書のような本ではありません。物語として楽しみながら、自然と歯に興味を持てる絵本ばかりです。「これ、歯医者さんのお話？」そんな何気ない会話が生まれること自体が、予防の第一歩だと感じています。またこの場所は、こどもたちが絵本を読み、大人が少し一息つける。目的がなくても、ふらっと立ち寄れる、

地域のコミュニティの場でもありたいと思っています。

歯科医院の隣に建つこの建物は、もともと祖母が住んでいた空き家でした。歯科医師として地域に関わる中で、「こどもたちの未来につながる場所をつくりたい」という思いが強くなり、絵本屋という形を選びました。

「よかよか」という名前には、「気にせんでよかよか」「なるようになる」という、九州らしい、やさしさが込められています。歯のことも、子育ても、完璧でなくていい。ここでは、少し肩の力を抜いてもらえたらと思っています。

絵本を通して歯のことを知り、歯医者に通うこどもたちが増えていく。その先に、熊本のこどもたちのむし歯が、全国でいちばん少なくなる日が来たら。「絵本屋よかよか」「合志かたやまこども歯科」は、そんな未来を目指しています。



絵本を通して歯に興味を持ってもらえるようにディスプレイしています

会 務 報 告

 自 令和8年1月23日
 至 令和8年2月19日

所管	日付	摘要	出務者
総 務	1月23日	第1回県医療審議会（県庁）	牛島会長
		第5回財務会計委員会（1）会館使用料	宇治専務理事
		【Web】くまもとメディカルネットワーク（KMN）コアメンバー会議	宇治専務理事
	24日	第2回各郡市長・専務理事連絡会議 [講演] 日本歯科医師会・伊藤明彦専務理事、日本歯科医師連盟・浦田健二副会長 [報告] （1）一般会務報告（2）各所管報告 [協議] （1）会館管理（2）アマルガムの処分（3）時局問題 ほか	牛島会長他常務理事以上全役員
	27日	月次監査 12月末会計現況監査	神山・永松監事
		第9回理事会 【承認事項】 （1）新入会員（2）共催・後援名義使用依頼（3）関係機関・団体からの役員等の推薦 【議題】 （1）関係機関・団体への会費等の納入（2）令和7年度第2回臨時代議員会会務報告 （3）令和8年度熊本県歯科医師会会計収支予算書（案）及び積立金収支予算（案） ほか	牛島会長他全役員
	31日	くま歯キャラバン隊（大歯大同窓会熊本支部）（ホテル日航熊本） （1）点数アップの為に保険診療のポイント 受講者：8人	野田理事
		阿蘇郡市歯会新年会（熊本ホテルキャッスル）	牛島会長、工藤副会長
	2月3日	第15回常務理事会 （1）関係機関・団体からの役員等の推薦依頼（2）関係機関・団体への会費等の納入（3）会館管理及び会館使用料 ほか	牛島会長他常務理事以上全役員
	6日	くま歯キャラバン隊（菊池郡市）（菊池郡市医師会立病院） （1）オーラルフレイル・口腔機能低下症について：22人	園田委員長
	7日	第37回新入会員研修会 （1）適切な保険診療と保険請求、施設基準（2）医療事故、トラブル（3）歯科医師会の各事業 参加者：29人	牛島会長、椿・大林・工藤副会長、宇治専務理事、馬場・町田・椿常務理事、野田理事
	9日	【Web】補助金に関する情報交換会（診療所）	牛島会長
	10日	県健康づくり推進課との打合せ（診療所） 保健医療計画の説明	牛島会長
	17日	本会事業・会計監査 1月末現況監査	神山・永松監事、牛島会長、工藤副会長、宇治専務理事、吉永会計士
		第16回常務理事会 （1）新入会員（2）関係機関・団体への会費等の納入（3）後援名義使用依頼 ほか	牛島会長他常務理事以上全役員
18日	事務局職員面談	宇治専務理事	
学 術	2月6日	学術講演会 演題：「予防に向かう歯科臨床－歯科医師と歯科衛生士のチームアプローチが決め手－」講師：岡本浩先生、竹内泰子先生 受講者：136人	牛島会長、椿副会長、馬場常務理事、豊田理事他3委員
社会保険	1月30日	【Web】社会保険小委員会（各診療所） （1）NDBオープンデータの分析検討	野田・園田理事、桐野委員長他3委員
	2月14日	近県歯会社会保険担当者会議（山口県歯会館）	牛島会長、園田・野田理事
	16日	【Web】社会保険小委員会（各診療所） （1）NDBオープンデータの分析検討	椿副会長、野田・園田理事、桐野委員長他3人
地域保健 学校歯科	2月4日	第2回強化専門委員会・第2回スポーツ医科学専門委員会合同会（水前寺共済会館）	大林副会長
	5日	くまもと21ヘルスプラン推進委員会（県庁）	松原崇士理事
		【Web】県学校保健会第1回総務委員会（診療所）	牛島会長
	6日	県高等学校保健会第3回理事会（熊本農業高校）	大林副会長
	10日	地域保健学校歯科小委員会 （1）学校歯科保健実態調査	大林副会長、高田理事、高水間委員長他2委員
	12日	県学校保健会第2回理事会（県医師会館）	牛島会長、大林副会長
	18日	日学歯加盟団体長会（日歯会館）	牛島会長
	19日	生活歯援プログラム（株KIS）	歯科衛生士2人
県PTA共済審査委員会（県総合福祉センター）		上野委員	
地域保健学校歯科小委員会 （1）3/9医療機関関連事業評価会議（2）5/31子どもシゴト博（3）6/6歯の祭典 ほか		松原崇士理事、高水間委員長他4委員	

所管	日付	摘要	出務者
地域包括ケア	1月29日	【Web】がん拠点病院研修会 【ZOOM】 受講者：55人 演題：がん治療における口腔機能管理のNext Step 講師：熊本大学病院 歯科口腔外科 吉田遼司准教授	町田常務理事、太田理事、三森委員
	31日	第1回介護者歯科実技研修会 講師：松尾浩一郎先生 演題：自施設の口腔ケア、適切にできていますか？利用者の健康を守O-HATを用いた口腔アセスメント連携 受講者：61人	牛島会長、町田常務理事、立山理事他3委員
	2月3日	県がん対策推進会議（熊本大学病院）	太田理事
	8日	県リハビリテーション専門職三団体協議会（市民会館シアーズホーム夢ホール） 講義：口腔機能へのかかわり 講師：町田由美子先生 参加者：80人	町田常務理事
	16日	【Web】在宅医療連携啓発イベント打合せ （1）開催の目的（2）開催時期（3）開催形式及び場所	【来館】町田常務理事、立山理事、園田委員長他7人【Web】他2人
	18日	第3回日歯地域保健委員会（日歯会館） 歯科医師・歯科衛生士ケアマネ座談会（東部まちづくりセンター） 第2回介護者歯科実技研修会（人吉温泉鍋屋） 講師：園田隆紹先生 演題：介護の現場で必要とされる口腔ケアについて 受講者：62人	町田常務理事 金子主任 立山理事、園田委員長他1委員、人吉球磨・齋藤会長、愛甲副会長、太田理事
広報	1月23日	広報アンバサダー打合せ	宇治専務理事、秋山理事、月精委員長
	2月9日	【Web】広報委員会 （1）熊歯会報3月号・1校日校正（2）第3回アンバサダー打合せ	【会館】秋山理事、月精委員長他2委員【Web】他3委員
	12日	RKKテレビ番組取材	秋山理事
	18日	【Web】広報委員会 （1）熊歯会報3月号・2校日校正（2）FMK「歯とお口の情報発信コーナー」放送内容振分け	【会館】秋山理事、月精委員長他3委員【Web】他2委員
医療対策	2月4日	医療相談	椿常務理事、松原良太理事、町田委員長他2委員
	16日	医療対策委員会 （1）事例報告（2）委員提出協議題（3）検討事項 ほか	椿常務理事、松原良太理事、町田委員長他全委員
厚生・医療管理	1月24日	復職支援研修会（九州看護福祉大学）【県歯科衛生士会主催】 講師：歯科衛生士・歯学博士 薄井由枝先生 受講者：12人	
	25日	復職支援研修会（学院校舎）【県歯科衛生士会主催】 講師：歯科衛生士・歯学博士 薄井由枝先生 受講者：20人	
	2月4日	県感染症対策連携協議会（県庁）	工藤副会長
	8日	【Web】復職支援離職防止講演会・実習 講師：フリーランス歯科衛生士 野口純佳先生 講演会Web参加者：16人【Webex】会場参加者：9人	工藤副会長、牧理事、黒岩委員長他4委員
	12日	RKKテレビ番組取材 【Web】厚生・医療管理小委員会（各診療所） （1）3/18求人・就業支援講演会（講師参加：㈱ナインデザイン飯田社長）（2）4/4シニア倶楽部（3）10/3九州各県担当者会 ほか	牛島会長、工藤副会長 工藤副会長、牧理事、黒岩委員長他1委員
センター	1月25日	口腔保健センター50周年記念式典打合せ（ホテル熊本テルサ）	椿センター長、我那覇・大坂副センター長、川島診療部長、協力医1人
	28日	口腔保健センター50周年記念式典打合せ	椿センター長
		四日市市歯科医療センターヒアリング（四日市市）	椿センター長他1人
	29日	四日市市歯科医療センター視察（四日市市口腔保健センター）	椿センター長他1人
	30日	口腔保健センター50周年記念式典打合せ（口腔保健センター）	我那覇・大坂副センター長、三管常任理事、川島診療部長
	31日	口腔保健センター見学会（口腔保健センター） 大分県口腔保健センター歯科衛生士1人	川島診療部長
		口腔保健センター50周年記念式典懇親会（熊本市）	牛島会長、椿センター長、我那覇・大坂副センター長、三管常任理事、川島診療部長
	2月1日	口腔保健センター50周年記念式典（ホテル熊本テルサ） 参加者221人	牛島会長、椿センター長、我那覇・大坂副センター長、三管常任理事、川島診療部長、宇治専務理事
	4日	口腔保健センター長診療日（口腔保健センター）	椿センター長
	6日	口腔保健センター役職員会（口腔保健センター） （1）アクティブネットワーク（2）医療的ケア児等支援検討協議会（3）熊本医療センターからの共同診療謝金 ほか	椿センター長、我那覇・大坂副センター長、三管常任理事、川島診療部長
	10日	【Web】アクティブネットワーク打合せ（各診療所）	我那覇副センター長
12日	【Web】九州各県口腔保健センター連絡協議会 （1）報告（2）各県提出議題	椿センター長、我那覇副センター長、三管常任理事、川島診療部長	

所管	日付	摘要	出務者
学 院	1月28日	学院解剖学見学実習（福岡歯科大学）	牛島学院長、大塚・西口係長
	2月2日	第4回教務委員会 （1）行事及び諸会議（2）学生現況（3）3年生後期試験及び全国模擬試験結果 ほか	牛島学院長、大林・弘中副学院長、井上教務部長他3委員
	6日	学院特別講義 「世界基準から見るこれからの歯科衛生士像」 竹内歯科クリニック 竹内泰子院長	牛島学院長、弘中副学院長
	7日	西部方面特科連隊創隊八周年記念行事（北熊本駐屯地）	弘中副学院長
	19日	3年生国試模試報奨金表彰	牛島学院長
国保組合	1月29日	第4回国保理事会 （1）保険給付規程の一部改正（案）（2）令和7年度補正予算（案）（3）規約の一部改正（案）ほか	牛島理事長他全役員
	2月6日	【Web】第2回全協理事長・役員研修会（県歯会館、各診療所）	牛島理事長、上野副理事長、宇治常務理事
	12日	第2回組合監査 令和7年度1月末現況 第5回国保理事会 （1）令和7年度通常組合会日程	守永・阿久根監事、牛島理事長、宇治常務理事 牛島理事長他全役員、大塚・浦田議員
事業課	2月9日	東京海上日動あんしんコンサルティングとの面談	工藤副会長、宇治専務理事



- ①今もっとも関心のあることを教えてください。
- ②自分が希望する歯科診療とはどのようなものだとお考えですか。
- ③他の歯科医院にはない自分の医院の特色を教えてください。
- ④今後の抱負は何ですか。

第1種会員



本田健一郎
(ホンダ ケンイチロウ)

おとなこども歯科egao

八代市西松江城2-9
GTマンション東京画廊102

- ①予防歯科
- ②患者さんに治療に対して理解してもらい、分からない事や不安な事をしっかり話しやすい環境を作りながらの診療。
- ③スタッフ、歯科医師ともに患者さんに対し優しく丁寧な事。
- ④地域の方に信頼されるよう日々の診察を頑張っていきたいです。

其の
1

会員専用グループ保険制度のご案内

保険料がさらに
お安くなりました

配偶者も 1000 万円
まで加入 OK

最高「5000 万円」の
保障が無診査で加入 OK
保険期間は80才まで継続可能！

1年更新で配当金は
毎年加入者へ還元
(2025年の還元率約 49%)

グループ保険は歯科医師会が契約者で
保険料を一括納付しています。
会員だけがいつでも自由に加入できる制度です。

引受保険会社 幹事 メットライフ生命

其の
2

既に下記の保険会社で加入の会員様も
保険料納付は団体収納扱いでお願いします！



下記保険会社と団体収納契約をしている為、会費明細引きがご利用可能。



個人加入の保険料が団体割引でお安くなり、保険内容に何も影響ありません。

手続きは簡単、事務局が代行します。ぜひ便利でお得な制度をご活用ください。

朝日生命 アフラック生命 住友生命 SOMPO ひまわり生命
第一生命 日本生命 メットライフ生命



主な行事予定

May **5**

7日(木) 第21回常務理事会 (県歯会館)

19日(火) 第22回常務理事会 (県歯会館)

26日(火) 第13回理事会 (県歯会館)



熊本県歯科医師会
安心・安全歯科医療推進制度



熊本歯科衛生士専門学院
Instagram



熊本歯科衛生士専門学院は
Instagram でも情報発信中！
ぜひご覧ください



編集者のつぶやき (N. A)

4月より【歯ッピー健口アンバサダー】が活動開始します。アンバサダーの活躍で県民の皆様にとって歯科の敷居が下がり身近な存在に感じてもらえるのではないかと楽しみです。

「外見とは内面を写しだす唯一の手掛かり」であり、人は脳科学的に見た目で相手を瞬時に判断すると云われています(メラビアン法則)。

アンバサダーの素敵な笑顔を通じて、歯の存在の重要性や日々の口腔ケアの大切さ、健口が幸せの始まりであることなどがより視覚的に周知されたら、歯科医療がこれまでより身近で気軽な「素敵のための第一歩」になるのではないのでしょうか。

余談ですが子供のころ飲んでいた「アンバサ」ってカルピス的なジュース美味しかったですよ(今はもう美味しいぶどうジュース見つけちゃったのでその世界に戻れないけど！)